



KGPN 地産地消キャンペーン

The e-Mono Story

ジモノがたり

no.17

地産地消の担い手紹介シート

- 農業
- 畜産業
- 食品加工業者
- 流通業者
- 飲食店
- 弁当惣菜店

市場出荷から地産地消へ 若手農家の挑戦

原田ファーム／原田淳史

原田さんの野菜を食べるには…

(京都の飲食店や食堂、小売店への直接販売を各方面でただいま画策中です)



伏見区

DATA

事業者名：原田ファーム
 代表者：原田淳史
 所在地：京都市伏見区向島
 電話：090-8938-3500
 主な生産物：
 米、ブロッコリー、サニーレタス、
 白菜、黒枝豆
 主な出荷先：
 京印京都南部青果株式会社

●父から肅々と受け継いだバトン



原田さんは巨椋池の干拓前から向島で代々田畑を守ってきた農家の6代目。

向島は農業後継者が比較的多い地域で、原田さんも次代の向島の農業を担うホープの1人。父親に教わりながら農業をして2年目です。「父には自分のやりたいことをやらせてもらい、それを助けてもらっています」と感謝する原田さん。農地の大半は稲作ですが、野菜の面積を徐々に増やしています。原田さんは、父親が農業に勤しむ姿を見て育ち、長男として家業を継ぐのが当たり前と考えていました。一時は製造の仕事に就いていましたが、就農には抵抗がなかったと、淡々と話して下さいました。

●風水害にも耐える土づくり

取材では、収穫期を迎えたブロッコリーの畑に案内してもらいました。ブロッコリーには保水性がある上に排水性が良い土壌が適しているそうで、原田ファームでは夏の植え付け前に有機堆肥を畑に入れてあります。今年の夏の豪雨や秋の長雨で、畑の水がひかなくなるころでしたが、原田ファームでは早く水が引いて畝も立てやすく、台風で苗が倒れたり飛ばされたりする被害も軽くすみ、順調に生育していち早く出荷にこぎつけることができました。



ミネラルなどの微量元素の葉面散布もされています。手冠水、手摘みと手間

をかけ「良いものをより丁寧に」をモットーに生産しています。

●新たな販路を求めて

向島のレタス部会や消防団に属して活動する中で、近隣の農家とも関係を深め、栽培技術や経営について教わることも多いそうです。府下の若手農業者の交流会や商談会などの場にも積極的に参加して、刺激を受けています。



「YouTubeで栽培方法の動画を見て情報を得ることもありますよ」という今どきの農業青年の一面も。原田ファームは、これまで慣例通り市場に出荷していましたが、今後は近隣の小売店や飲食店などにも直接販売したいと画策しています。自分の育てた米や野菜がどこでどう消費されるか知りたい、というのも動機の一つです。消費地に近い向島の地の利を活かして、地産地消の夢に挑んでいます。

KGPN
 京都でグリーン購入を
 いちおし/
 ジモノ

原田ファーム
 ブロッコリー



「おはよう」という中早生品種で、原田さんは11月初旬からいち早く出荷しています。低温でも紫色になりにくく、緑色の濃い品種です。緑黄色野菜の中でもとりわけ栄養価が高いブロッコリーを、新鮮な地物で味わってください。